

表11-1 10種類の雲形の名称とよく現れる高さ

層	雲形の名称	雲形に関する解説	出現高度
上層	巻雲(Ci) <b>Cirrus</b>	繊維状をした繊細な、離ればなれの雲で、一般に白色で羽毛状かぎ形、直線状の形となることが多い。また、絹のような光沢を持っている。	5～13km
	巻積雲(Cc) <b>Cirrocumulus</b>	小さい白色の片（部分的には繊維構造が見えることもある）が群をなし、うろこ状又はさざ波状の形をなした雲で、陰影はなく一般に白色に見える場合が多い。大部分の雲片の見かけの幅は1度以下である。	
	巻層雲(Cs) <b>Cirrostratus</b>	薄い白っぽいベールのような層状の雲で陰影はなく、全天をおおうことが多く、普通、日のかさ、月のかさ現象を生ずる。	
中層	高積雲(Ac) <b>Alto cumulus</b>	小さなかたまりが群をなし、斑状又は数本の並んだ帯状の雲で、一般に白色又は灰色で普通陰がある。雲片は部分的に毛状をしていることもある。規則的に並んだ雲片の見かけの幅は、1度から5度までの間にあるのが普通である。	2～7km
	高層雲(As) <b>Altostratus</b>	灰色の層状の雲で、全天をおおうことが多く、厚い巻層雲に似ているが日のかさ、月のかさ現象を生じない。この雲の薄い部分ではちょうど、すりガラスを通して見るようにぼんやりと太陽の存在が判る。	
	乱層雲(Ns) <b>Nimbostratus</b>	ほとんど一様でむらの少ない暗灰色の層状の雲で、全天をおおい雨又は雪を降らせることが多い。この雲のいずれの部分も太陽を隠してしまうほど厚い。低いちぎれ雲がこの雲の下に発生することが多い。	
下層	層積雲(Sc) <b>Stratocumulus</b>	大きなかたまりが群をなし、層又は斑状、ロール状となっている雲で、白色又は灰色に見えることが多い。この雲には毛状の外観はない。規則的に並んだ雲片の大部分は見かけ上5度以上の幅を持っている。	地面付近 ～2km
	層雲(St) <b>Stratus</b>	灰色の様な層の雲で霧に似ている。不規則にちぎれている場合もある。霧雨、細氷、霧雪が降ることがある。この雲を通して太陽が見えるときはその輪郭がハッキリ判る。非常に低温の場合を除いては、かさ現象は生じない。	
	積雲(Cu) <b>Cumulus</b>	垂直に発達した離ればなれの厚い雲で、その上面はドームの形をして隆起しているが、底はほとんど水平である。この雲に光が射す場合は明暗の対照が強い。積雲はちぎれた形の雲片になっていることがある。	
	積乱雲(Cb) <b>Cumulonimbus</b>	垂直に著しく発達している塊状の雲で、その雲頂は山又は塔の形をして立ち上がっている。少なくとも雲頂の一部は輪郭がぼつれるか又は毛状の構造をしていて普通平たくなっていることが多い。この雲の底は非常に暗く、その下にちぎれた低い雲を伴い、普通雷電、強いしゅう雨、しゅう雪、ひょう及び突風を伴うことが多い。	

注：「層」は、天気現象(weather phenomena)の起こる対流圏を、雲を分類するための目安として区分したものである。

なお、中層欄のAsは、上層まで広がっていることが多く、同じくNsは、上層及び下層まで見ることが出来る。また、下層欄のCu、Cbは、雲頂が上層まで達していることが多い。